【別紙様式　8】

課題番号	総10－002

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２５　年　　３月　　１１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　稲葉　陽二

所属・資格　法学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

ソーシャル・キャピタルを考慮した高齢者に優しいまちづくりの研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

稲葉　陽二

・研究分担者（役割分担）

菅野　剛（コミュニティのネットワークの研究・郵送調査実施・分析）

中川　雅之（経済的合理性の検証）

三橋　博巳（コンパクトシティの研究）

矢野　聡（高齢者への対応・福祉政策）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
稲葉陽二・菅野剛	日本行動計量学会	全国社会関係資本調査にみる認知的社会関係資本と構造的社会関係資本の変化	H23 年 9 月
稲葉陽二・菅野剛	日本 NPO 学会	全国社会関係資本調査にみる認知的社会関係資本と構造的社会関係資本の変化	H24 年 3 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
稲葉陽二	全国社会関係資本調査にみる認知的社会関係資本と構造的社会関係資本の変化	ディスカッションペーパー２０１１－００２－J	23 年 5 月	日本 NPO 学会
稲葉陽二	『政経研究』／「暮らしの安心・信頼・社会参加に関するアンケート調査　2010 年社会関係し資本全国調査の概要」	第 48 巻 第 1 号	23 年 7 月	日本大学法学会
稲葉陽二・藤原佳典	「第 7 章社会関係資本の政策的含意」稲葉陽二・藤原佳典編著『ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立　重層的予防策とソーシャルビジネスへの展望』』	共編著	25 年 1 月	ミネルヴァ書房
稲葉陽二	「暮らしの安心を支える人の絆　ソーシャル・キャピタルの今」『月刊自治研』	Vol. 54, No. 631	24 年 4 月	自治労出版センター
稲葉陽二・菅野剛・中川雅之・三橋博巳・矢野聡	「高齢者に優しい街づくり」『法学紀要』	第 54 巻	25 年 3 月	日本大学法学部政経研究所 法学研究所

※ホームページ等での公開の（○可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載等

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日
稲葉陽二	中公新書『ソーシャル・キャピタル入門』	平成 23 年 11 月 25 日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

なし

（外部資金の獲得）

本研究の調査実績を踏まえ、23年度と24年度、文部科学省科研費基盤研究（A）を申請し、24年度採択されました。（課題番号24243040　研究代表者稲葉陽二）加えて、本研究から派生した２つのテーマ、①社会関係資本のダークサイド、②社会関係資本と経済格差の関係、については、①については23年度～25年度文部科学省科研費挑戦的萌芽研究（研究課題「社会関係資本をとうしてみた企業不祥事の実証研究」研究代表者稲葉陽二　交付額473万円）が採択されました。また、②については平成24年度厚生労働科学研究費補助金地球規模保健課題推進研究事業（研究課題　「健康の社会的決定要因に関する研究」研究代表者尾島俊之浜松医科大学教授、稲葉は分担研究者　24年度研究分担金247万円）が採択されました。

（他の研究への発展）

上記のように、本研究により実施した社会関係資本全国調査にもとづき、①格差と社会関係資本の関係の分析②社会関係資本のダークサイドの研究を実施中です。

（その他）

①日韓アジア学術セミナー：本研究による人的ネットワークから、平成 23 年度日本学術振興会から日韓アジア学術セミナー（日本側：日本学術振興会、日本大学法学部、韓国側：National Research Foundation of Korea, 高麗大学校政経大学の共同主催）を日本大学法学部として受託（受託金額 890 万円）し本研究の代表者稲葉が責任者となり実施しました。本セミナーは当初平成 24 年 3 月の実施を予定しておりましたが東日本大震災のため、平成 24 年 9 月に延期となり、平成 24 年 9 月 14 日から 17 日の 4 日間、合計 12 セッション 20 講義（日本側 11 本、韓国側 9 本）を、講師 20 名、受講生 44 名計 64 名（日本側 35 名、韓国側 29 名）の参加を得て本学法学部で実施いたしました。　参加者からは、社会関係資本とコミュニティの研究についての日韓両国の若手研究者の交流の機会として高い評価を得ております。

②啓もう書の刊行：このほか、研究代表者稲葉が本研究の知見を踏まえて、平成 23 年 11 月 25 日、中央公論新社より『ソーシャル・キャピタル入門』（中公新書）を一般書として上梓いたしました。

【別紙様式　８】

課題番号	総　10-007

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２４年５月８日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　　寺　西　重　郎　　印

所属・資格　　商学部・教授

下記のとおり提出いたします。

１　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　(総合研究)	注：該当する種目を○で囲んでください。

２　研究課題

経済発展と中間組織；アジアにおける中間組織形成の理論的実証的研究

３　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

寺西重郎　商学部・教授（研究全体の統括、個別国の実証研究（日本））

・研究分担者（役割分担）

松原　聖　商学部・准教授（個別国の実証研究（韓国））

飯野　文　商学部・専任講師（クロス・カントリー研究（貿易政策））

井上葉子　商学部・専任講師（個別国の実証研究（中国））

浅田義久　経済学部・教授（クロス・カントリー研究（地方分権））

曽根康雄　経済学部・准教授（個別国の実証研究（中国））

安藤至大　総合科学研究科・准教授（中間組織の理論研究）

４　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
寺西重郎	JICA-Oxford conference on ethnic diversity	Collectivism and individualism in a comparative historical perspective	2011 年 7 月 15 - 17 日
飯野文	日本貿易学会全国大会	国際貿易体制における非政府組織（NGO)の位置づけと今後の展開	2011 年 5 月
井上葉子	「経済発展と中間組織」プロジェクト研究会	中間組織としての居民委員会	2011 年 1 月 19 日
安藤至大	The 26th Congress of the European Economic Association	Covenants not to compete and firms' recruiting strategies	2011 年 8 月 29 日
浅田義久	東京大学第 32 回住宅政策研究会	資本コストによる住宅市場分析から	2011 年 10 月 25 日

５　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Kiyoshi Matsubara	International Journal of Trade and Global Markets/FDI Spillovers and Intellectual Property Rights	5(1)	2012. 2	Inderscience Publishers
曽根康雄	エコノミスト　/中国が使い分ける人民元の『自由化』と『国際化』		2011.1. 25	毎日新聞社

※ホームページ等での公開の　(可・否)　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

科学研究費補助金（基盤研究（A））平成 23 - 25 年度

研究課題名：中間組織の形成過程と経済的機能；アジアとアフリカに関する歴史的・理論的研究

研究代表者：寺西重郎

研究分担者：松原聖、飯野文、井上葉子、浅田義久、曽根康雄、安藤至大、浅見靖仁、外谷英樹、村瀬英彰、ほか 4 名

直接経費総額：3,250 万円

（他の研究への発展）

（その他）

【別紙様式　８】

課題番号	総 10-008 継続 総 09-003

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　２４年　１１月　２７日

日　本　大　学　総　長　殿

氏　　名　中川　活二

所属・資格　理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　(総合研究)	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

次世代超高密度磁気光複合記録システムと材料に関する研究

Ultra high density hybrid recording system and materials

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者　　中川　活二

・研究分担者（役割分担）

伊藤 彰義；　ハイブリッド記録用ナノ構造と材料，シミュレーション

塚本　　新；　光による磁化反転の高速直接制御

芦澤 好人；　磁気・光ハイブリッド記録プラズモンアンテナの試作とシミュレーション

遠藤　　拓；　超高密度磁気記録のシミュレーション

移川 欣男；　超高密度磁気記録用材料

新妻 清純；　超高密度磁気記録用材料

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
森山優一，長勇次，芦澤好人，中川活二，塚本新，伊藤彰義	マグネティックス研究会	熱アシスト磁気記録用記録媒体における熱分布解析	2009 年 12 月
森山優一，長勇次，芦澤好人，中川活二，塚本新，伊藤彰義	電気学会 基礎・材料・共通部門大会	熱アシスト磁気記録用記録媒体における熱分布解析	2010 年 9 月
芦澤好人，斉藤伸，長勇次，田尻集，井上健，高橋研，中川活二	平成 22 年度日本大学理工学部学術講演会	熱アシスト磁気記録用 CoPtCr 系媒体の検討	2010 年 11 月
野崎瑛，太田武志，長勇次，田尻集，芦澤好人，中川活二，伊藤彰義	平成 22 年度日本大学理工学部学術講演会	熱アシスト記録基礎検討のための近接場アンテナ積層構造における熱伝導解析	2010 年 11 月
Takeshi Ota, Yoshito Ashizawa, Katsuji Nakagawa, and Akiyoshi Itoh	International Conference of AUMS 2010	Near-field Intensity Analysis with Inclined Plasmon Antenna for High Density Thermally Assisted Magnetic Recording	Dec. 2010

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
森山 優一，長 勇次，芦澤 好人，塚本新，中川 活二，伊藤 彰義	電気学会研究会資料. MAG／熱アシスト磁気記録用記録媒体における熱分布解析	MAG-09-168～189	2009 年 12 月	社団法人電気学会
中川活二，芦澤好人，塚本新，伊藤彰義，遠藤拓，上坂保太郎，新妻清純，移川欣男	日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル ／ 近接場光を用いた熱アシスト磁気記録とナノ粒子記録媒体	129	2012 年 10 月	日本大学理工学部理工学研究所

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

ＣＤ案件番号： 11509，発明の名称： 情報記録ヘッド、情報記録装置、情報記録方法及び光デバイス，出願番号： 特願 2010-161996，出願日： 平成 22 年 7 月 16 日，特開 2012-22760，公開日：平成 24 年 2 月 2 日，発明者： 中川　活二，芦澤　好人，大貫　進一郎，伊藤　彰義，塚本　新

（外部資金の獲得）

次世代超高密度磁気光複合記録システムに関する研究により、以下の外部資金の採択に至った
平成 23 年度 科学研究費基盤研究(C)
平成 24 年度 科学研究費若手研究 (B)
カシオ科学振興財団　第 29 回(平成 23 年度)研究助成金

（他の研究への発展）

次世代超高密度磁気光複合記録システムにおける研究では，東北大学および理工学部の大貫進一郎，桑本剛，羽柴秀臣などとの共同研究に発展した。

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	総 10-016 継続 総 09-009

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　24　年　4月　15日

日　本　大　学　総　長　殿

氏　　名　野呂　知加子　印

所属・資格　生産工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

高次生命機能を指標とした新規有用化合物スクリーニング系の開発

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

野呂　知加子　生産工学部・教授（全体総括、細胞と個体を用いた高次生命機能スクリーニング系の開発）

・研究分担者（役割分担）

神野　英毅　生産工学部・教授（新規有用化合物の探索と精製、遺伝子発現解析）

柏田　歩　生産工学部・准教授（ペプチド合成と精製　タンパク発現解析）

小森谷　友絵　生産工学部・専任講師（多能性幹細胞を用いたスクリーニング系開発）

松本　太郎　医学部・教授（ヒト間葉系幹細胞を用いたスクリーニング系開発）

加野　浩一郎　生物資源科学部・准教授（脱分化脂肪細胞を用いた分化スクリーニング系開発）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
小宮山翔吾、松本太郎、加野浩一郎、野呂知加子	第10回日本再生医療学会	脱分化脂肪細胞を細胞源とする血管再生医療	2011年3月1日
三浦裕太、山崎拓也、上村悟氏、小澤要、小森谷友絵、神野英毅、杉山弘、福田昇、野呂知加子	第84回日本生化学会大会	PI ポリアミドによるカドヘリン遺伝子発現抑制と上皮-間充織転換誘導	2011年9月22日
三浦裕太、山崎陽花、小森谷友絵、神野英毅、杉山弘、福田昇、野呂知加子	第34回日本分子生物学会年会	PI ポリアミドによるカドヘリン遺伝子発現抑制と上皮-間充織転換の遺伝子発現解析	2011年12月15日
大田貴紀、清水武則、吉宗一晃、小森谷友絵、野呂知加子、神野英毅	第34回日本分子生物学会年会	Aβ1-42の細胞特性と神経特異的遺伝子の発現による解析	2011年12月13日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Shan L, Noritake S, Fujiwara M, Asano S, Yoshida-Noro C, Noro N, Yamashita K, Kawakami T.	Inflammation. / Sec14l3 is Specifically Expressed in Mouse Airway Ciliated Cells. Inflammation.	Epub ahead of print	2011 Jul 28	Springer
Sugio M, Yoshida-Noro C*, Ozawa K, Tochinai S	Develop. Growth, Differ. / Stem Cells in Asexual Reproduction of Enchytraeus japonensis (Oligochaeta, Annelid) : Proliferation and Migration of Neoblasts	in press.	2012	Wiley Blackwell
Kashiwada A, Tsuboi M, Takamura N, Brandenburg E, Matsuda K, Koksch B.	Chemistry / Design and characterization of endosomal-pH-responsive coiled coils for constructing an artificial membrane fusion system.	17:6179-86	2011	Wiley Blackwell

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊・夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

科学研究費基盤研究 C（一般）（平成 22-24 年度）「ヤマトヒメミミズ再生初期に幹細胞に発現する遺伝子 *grimp* の機能解析」研究代表者　野呂知加子
科学研究費基盤研究 B（一般）（平成 23-25 年度）「高齢者難治性疾患に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の確立」（研究代表者　松本太郎）研究分担者 野呂知加子、加野浩一郎
JST　研究成果最適展開支援プログラム A-STEP　フィージビリティスタディ[FS]ステージ探索タイプ（平成 23 年度）　「培養下/移植下双方で利用可能な 3 次元組織構築デバイスの開発」研究代表者　野呂知加子
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（H20-24 年度）「難治性免疫疾患に対する細胞・遺伝子治療法の開発」（研究代表者　羅智靖）（文部科学省・日本大学）研究分担者

（他の研究への発展）

日本大学学術研究助成金（総合研究）（平成22-23年度）「臍帯血、臍帯組織幹細胞を用いた新規細胞治療の開発（研究代表者　麦島秀雄）研究分担者
日本大学生産工学部応用分子化学科特別研究費（平成 23 年度）「組織再生工学への化学的アプローチ」研究代表者　野呂知加子

（その他）

研究成果については上記の学会の他、国際バイオＥＸＰＯバイオアカデミックフォーラムにて招待講演を行った（2011 年 6 月 29 日）。また、日本大学学部間連携研究シンポジウムとして開催された第７回日本大学先端バイオフォーラムにおいても講演を行った。また、指導する修士学生が、同フォーラムの他、日本大学生産工学部学術講演会にて発表研究発表を行った。

【別紙様式　8】

課題番号	総 09-014 総 10-022

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　24 年　12 月　25 日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　越永　従道　㊞

所属・資格　医学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

MYCN 遺伝子を標的とした神経芽細胞腫の新規治療法の開発

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

越永　従道

・研究分担者（役割分担）

麦島　秀雄　（小児腫瘍薬物治療法開発）
松本　宣明　（薬物動態の解析）
斎藤　勉　（治療薬動態イメージング解析）
杉藤　公信　（小児腫瘍薬物治療法開発）
青山　隆彦　（薬物動態の解析）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
植草　省太、杉藤　公信、吉澤　信輔、川島　弘之、五十嵐　潤、池田　太郎、青山　隆彦、斎藤　勉、越永　従道、松本　宣明、麦島　秀雄　永瀬　浩喜	第 54 回日本小児血液・がん学学術集会	*MYCN* 遺伝子を標的とした分子標的薬物による神経芽腫細胞株xenograft モデルにおける抗腫瘍効果の検討	2012 年 11 月 30 日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
なし		・		
		・		
		・		
		・		

※ホームページ等での公開の（㊀・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日
なし		

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量
なし			

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）
なし

（外部資金の獲得）
本研究における神経芽細胞腫に対する MYCN 遺伝子を標的とした PI ポリアミド化合物を用いたアプローチと同様に腎芽腫の発生基盤となる疾患でもある Beckwith-Wiedemann 症候群の治療法にも着手し、平成22 年度の科学研究費（(ベックウィズウィードマン症候群および腎芽腫の刷り込み現象：その化学調整研究基盤研究（C)、代表：越永従道)）を獲得した。

（他の研究への発展）
本研究では MYCN 遺伝子を標的とした PI ポリアミド化合物が神経芽細胞腫に対してある一定の抗腫瘍効果を得られることが解明された。しかしその効果は不安定であり PI ポリアミド化合物のさらなる改良の余地があると考えられた。そのため追加となる研究を進めつつ、前述の通り本研究での PI ポリアミド化合物を用いた手法で腎芽腫の発生基盤となる疾患である Beckwith-Wiedemann 症候群の原因とされる CCATT 配列への蛋白結合の異常に対して PI ポリアミド化合物を用いて発生基盤の解明およびその治療に関する研究を遂行している。

（その他）
なし

【別紙様式　8】

課題番号	総 10-023 継続 総 09-015

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　24 年　4 月　1 日

日　本　大　学　総　長　殿

氏　　名　江角　眞理子

所属・資格　医学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

マイクロダイセクション・プロテオミクス融合による新規病態分子の解明と診断への応用

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

江角　眞理子

・研究分担者（役割分担）

高山　忠利　　（肝細胞癌症例の収集と予後調査）

小宮山　一雄　　（白板症と扁平苔癬の組織マイクロダイセクションと解析）

杉谷　雅彦　　（マイクロダイセクション）

黒田　和道　　（微量サンプル対応 nanoLC-MS/MS の樹立）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Esumi M, Yamaguchi H, Kuroda K, Munekata Y, Obana Y, Takahashi R, Fuchinoue F, Sugitani M, Nagase H, Takemura T, Minowa T, Hanagata N, Nakayama H, Takayama T	The 3rd JCA-AACR Special Joint Conference – The Latest Advances in Liver Cancer Research: From Basic Science to Therapeutics	Liver microenvironment containing cytokeratin 19-positive cells associated with the early recurrence of hepatocellular carcinoma.	2011 年 3 月
山口裕美、黒田和道、宗像康明、尾花ゆかり、高橋理恵、渕之上史、杉谷雅彦、藤原恭子、中山壽之、高山忠利、江角眞理子	第 70 回日本癌学会学術総会	肝細胞癌の早期再発と微小環境 - 細胆管増生を伴う非癌部間質のプロテオーム解析	2011 年 10 月
海老原貴之、江角眞理子、中橋昌弘、沼口俊平、山口裕美、黒田和道、宗像康明、楠美嘉晃、高橋理恵、坂本美佳、徳橋泰明	第 26 回日本整形外科学会基礎学術集会	レーザーマイクロダイセクションにより採取したヒトおよびラット椎間板組織のプロテオーム解析	2011 年 10 月
松本直行、田中孝佳、西村敏、大木秀郎、小宮山一雄	第 65 回日本口腔科学会学術集会	ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤が口腔癌細胞株の血管・リンパ管誘導に及ぼす影響	2011 年 4 月
海老原貴之、江角眞理子、山口裕美、黒田和道、宗像康明、楠美嘉晃、高橋理恵、尾花ゆかり、徳橋泰明	第 41 回日本脊椎脊髄病学会	ヒト椎間板組織の多様性とそのプロテオーム解析：組織切片レーザーマイクロダイセクションサンプルの比較プロテオミクス	2012 年 4 月

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の　(可)　否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）
平成 22 年度-24 年度　科学研究費補助金基盤研究(C)
「ミクロプロテオミクスによる細胞内と微小環境におけるＣ型肝炎ウイルス制御因子の解明」

（他の研究への発展）
平成 24 年度　日本大学医学部創立 50 周年記念研究奨励金（共同研究）
「レーザーマイクロダイセクション・プロテオーム解析を用いた、椎間板変性の分子病態解析」
平成 22 年度-26 年度　戦略的研究基盤形性支援事業
「インフルエンザウイルスと口腔・気道細菌との相互作用の機序と呼吸器疾患重症化の病態の解明」

（その他）
新しい企画「AB SCIEX アカデミックパートナーシッププログラム」に参加する交渉をはじめている。このプログラムは、世界中の学術的な研究機関を対象として、ライフサイエンス研究をリードする研究者に対し、AB SCIEX の質量分析装置がどのように貢献できるかを、それぞれの研究テーマごとに紹介・提案する。一方で今後の分析装置の開発のため、研究者から OMICS 研究に必要な機能について、現場の声を AB SCIEX へフィードバックするプログラムである。

【別紙様式　8】

課題番号	総 10-031 継続 総 09-018

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　24年　3月　31日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　小　林　真　之　　小林印

所属・資格　歯学部・薬理学講座・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

顎顔面口腔領域に生じる感覚の高次脳における制御機構

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

小林真之

・研究分担者（役割分担）

越川憲明（歯学部・教授）動物実験の立案と助言；藤田智史（歯学部・助教）動物実験の遂行；坪井美行（歯学部・専任講師）動物実験の遂行；大井　良之（歯学部・教授）ヒトにおける実験の課題立案；小川節郎（医学部・教授）ヒトにおける実験の課題立案；伊藤　芳久（薬学部・教授）動物実験の立案と助言：石毛久美子（薬学部・教授）動物実験の遂行

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Kobayashi M, Koyanagi Y, Yamamoto K, koshikawa N	Neuro2010	β-Adrenoceptors differentially modulate inhibitory synaptic transmission depending on presynaptic interneuron subtype	2010 9月3日
小林真之, 藤田智史, 越川憲明	第 52 回歯科基礎医学会学術大会	島皮質における興奮伝達の長期増強	2010　9月
小林真之, 越川憲明	第 4 回三叉神経領域における感覚一運動統合機構研究会	味覚想起課題において前頭前野は島皮質に先行して活性化される	2010 11月28日
小林真之, 越川憲明	第 5 回三叉神経領域における感覚一運動統合機構研究会	ＧＡＢＡB 自己受容体による抑制性シナプス伝達の修飾機構	2011 12月3日

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Kobayashi M, Fujita S, Takei H, Song L, Chen S, Suzuki I, Yoshida A, Iwata K, Koshikawa N	*Synapse* / Functional mapping of gustatory neurons in the insular cortex revealed by pERK-immunohistochemistry and in vivo optical imaging.	64	2010	Wiley-Blackwell
Fujita S, Adachi K, Koshikawa N, Kobayashi M	*Neuroscience* / Spatiotemporal dynamics of excitation in rat insular cortex : intrinsic cortico-cortical circuit regulates caudal-rostro excitatory propagation from the insular to frontal cortex.	165	2010	Elsevier
Chen S, Fujita S, Koshimawa N, Kobayashi M	*Neuroscience* / Pilocarpine-induced status epilepticus causes acute interneuron loss and hyper-excitatory propagation in rat insular cortex.	166	2010	Elsevier

Koyanagi Y, Yamamoto K, Oi Y, Koshikawa N, Kobayashi M	*J Neurophysiol* / Presynaptic interneuron Subtype- and age-dependent modulation of GABAergic synaptic transmission by ß-Adrenoceptors in rat insular cortex.	103	2010	American Physiologcal Society
Yamamoto K, Koyanagi Y, Koshikawa N, Kobayashi M	*J Neurophysiol* / Postsynaptic cell type-dependent cholinergic regulation of GABAergic synaptic transmission in rat insular cortex.	104	2010	American Physiologcal Society
Takei H, Fujita S, Shirakawa T, Koshikawa N, Kobayashi M	*Neuroscience* / Insulin facilitates repetitive spike firing in rat insular cortex via phosphoinositide 3-kinase but not mitogen activated protein kinase cascade.	170	2010	Elsevier
Kobayashi M, Sasabe T, Shigihara Y, Tanaka M, Watanabe Y	*PLoS ONE* / Gustatory imagery reveals functional connectivity from the prefrontal to insular cortices traced with magnetoencephalography .	6,e21736	2011	PLOS
Mizoguchi N, Fujita S, Koshikawa N, Kobayashi M	*Neurobiol Learn Mem* / Spatiotemporal dynamics of long-term potentiation in rat insular cortex revealed by optical imaging.	96	2011	Elsevier
Fujita S, Koshikawa N, Kobayashi M,	*Neuroscience* / GABAB receptors accentuate neural excitation contrast in rat insular cortex.	199	2011	Elsevier
Kobayashi M	*Int Rev Neurobiol* / Macroscopic connection of rat insular cortex: anatomical bases underlying its physiological functions.	97	2011	Elsevier
Kohnomi S, Koshikawa N, Kobayashi M	*J Neurophysiol* / D2-like dopamine receptors differentially regulate unitary IPSCs depending on presynaptic GABAergic neuron subtypes in rat nucleus accumbens shell.	107	2012	American Physiologcal Society
Kobayashi M, Takei H, Yamamoto K, Hatanaka H,Koshikawa N	*J Neurophysiol* / Kinetics of GABAB autoreceptor-mediated suppression of GABA release in rat insular cortex.	107	2012	American Physiologcal Society
Fujita S, Kitayama T, Mizoguchi N, Oi Y, Koshikawa N, Kobayashi M	*Neuroscience* / Spatiotemporal profiles of transcallosal connections in rat insular cortex revealed by in vivo optical imaging.	206	2012	Elsevier

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

科研費(基盤 C) 20592188
学術フロンティア推進プログラム「顎顔面口腔における難治性神経疾患研究の拠点形成」

（他の研究への発展）

本研究助成金によって開始した研究プロジェクトは，動物を対象とした光学イメージング研究およびヒトを対象とした脳磁図研究共に円滑に遂行することが出来た。その結果，研究代表者が主体となって国際誌に発表した論文に限っても，2010 年に 6 報，2011 年に 4 報，2012 年は既に 5 報を発表した。これらの業績は，現在進行形で次のプロジェクトに受け継がれている。特に光学イメージング研究については，国内でも数ヶ所の研究室でしか行われていない特殊技術であり，独自性の高い研究に発展しつつあることを申し添える。

（その他）

本プロジェクトに参加してくれた大学院生である小柳裕子博士，武井浩樹博士は，臨床講座から派遣された大学院生であったが，いずれもポスドクとして研究に専念することになった。藤田智史助教は，イメージング研究に大きく貢献した後，スタンフォード大学医学部に留学した。また，ポスドクとして本プロジェクトに参加した溝口尚子博士，山本清文博士は今後も歯学部薬理学講座で研究を続けることになっている。このように，本プロジェクトに参画した若手の研究者の大部分が研究職に就いていることから，日本大学における若手研究者の育成に貢献できたものと自負している。ここに，豊富な研究資金を提供いただいた日本大学に深く感謝の意を表す。本プロジェクトの研究成果を基に，今後のさらなる研究の発展に努めたい。

【別紙様式　８】

課題番号	総 10-035 継続 総 09-025

注：課題番号を記入してください。

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成２４年　５月３１日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏　　名　小　方　頼　昌　　印

所属・資格　松戸歯学部　　教　授

退職,転出の場合は,（　）書きで受領時の資格を記入

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

歯周組織再生における転写因子と骨シアロタンパク質の役割

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者　　小方頼昌

・研究分担者（役割分担）

落合邦康（細胞内情報伝達系の解析）、大島光宏（タンパク質発現調節の解析）、加野浩一郎（細胞分化機構の解析）、大場茂夫（再生医学への応用解析）、木場秀夫（病理組織学的解析）、増永浩（細胞生物学的解析）、中尾寿美（転写調節機構の解析）、高井英樹（転写因子の結合能の解析）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Y. Sasaki, Y. Ogata	The 96nd Annual Meeting of AAP in collaboration with JSP	Regulation of Bone Sialoprotein Gene Transcription by IGF-II.	30 Oct–2 Nov, 2010
H. Takai, Y. Nakayama, S. Araki, M. Mezawa, Y. Ogata	10th ICCBMT	Estrogen Receptor Stimulates Bone Sialoprotein (BSP) Gene Transcription.	7-12 November, 2010
Y. Ogata, Z. Li, L. Yang, Z. Wang, H. Takai, X. Li	10th ICCBMT	Transcriptional Regulation of Bone Sialoprotein Gene by *P. gingivalis* Lipopolysaccharide.	7-12 November, 2010
松村浩禎、佐々木庸子、高井英樹、中山洋平、増永浩、中尾寿美、木場秀夫、大場茂夫、加野浩一郎、大島光宏、落合邦康、小方頼昌	第11回日本大学口腔科学会学術大会	ヒト BSP 遺伝子発現に対するインターロイキン 11 の影響	2011 年 9 月 4 日
H. Matsumura, L. Zhou, Y. Ogata	IADR general Session, Iguacu falls, Brazil	Interleukin-11 Stimulates Bone Sialoprotein Gene Transcription	21 June, 2012
L. Zhou, H. Matsumura, Y. Sasaki, M. Mezawa, Y. Ogata	IADR general Session, Iguacu falls, Brazil	Effects of Protamine on Bone Sialoprotein Gene Expression	21 June, 2012
Y. Ogata, H. Takai, L. Zhou, H. Matsumura, X. Li	IADR general Session, Iguacu falls, Brazil	Transcriptional Regulation of Bone Sialoprotein Gene by *A. actinomycetemcomitans* Lipopolysaccharide	21 June, 2012

5　著書・雑誌論文　（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Y. Nakayama, L. Yang, M. Mezawa, S. Araki, Z. Li, Z. Wang, Y. Sasaki, H. Takai, S. Nakao, M. Fukae, Y. Ogata	Effects of porcine 25 kDa amelogenin and its proteolytic derivatives on bone sialoprotein expression. J Perio Res	45	2010	John Wiley & Sons
L. Yang, H. Takai, T. Utsunomiya, X. Li, Z. Li, Z. Wang, S. Wang, Y. Sasaki, H. Yamamoto, Y. Ogata	Kaempferol stimulates bone sialoprotein gene transcription and new bone formation. J Cell Biochem	110	2010	Wiley InterScience
X. Li, N. Kato, M. Mezawa, Z. Li, Z. Wang, Y. Sasaki, T. Kaneko, H. Takai, A. Yoshimura, Y. Ogata	Transcriptional Regulation of Bone Sialoprotein Gene by *P. gingivalis* Lipopolysaccharide. J Cell Biochem	110	2010	Wiley InterScience
Z. Wang, X. Li, Z. Li, L. Yang, Y. Sasaki, S. Wang, L. Zhou, S. Araki, M. Mezawa, H. Takai, Y. Ogata	Effects of Inorganic Polyphosphate on Bone Sialoprotein Gene Expression. Gene	452	2010	ELSEVIER
Z. Li, Y. Sasaki, M. Mezawa, S. Wang, X. Li, L. Yang, Z. Wang, L. Zhou, S. Araki, H. Matsumura, H. Takai, Y. Ogata	cAMP and Fibroblast Growth Factor 2 Regulate Bone Sialoprotein Gene Expression in Human Prostate Cancer Cells. Gene	471	2011	ELSEVIER
S.Wang, Y. Sasaki, L. Zhou, H. Matsumura, S. Araki, M. Mezawa, H. Takai, Z. Chen, Y. Ogata	Transcriptional regulation of bone sialoprotein gene by interleukin-11. Gene	476	2011	ELSEVIER
X. Li, L. Zhou, H. Takai, Y. Sasaki, M. Mezawa, Z. Li, Z. Wang, L. Yang, S. Wang, H. Matsumura, T. Kaneko, A. Yoshimura, Y. Ogata	*Aggregatibacter actinomycetemcomitans* lipopolysaccharide regulates bone sialoprotein gene transcription. J Cell Biochem	113	2012	Wiley InterScience

※ホームページ等での公開の（可）否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）

科学研究費補助金；基盤研究(C)　歯周組織再生を制御する細胞外マトリックスと転写因子の発現調節機構　研究期間：2010 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日（予定）

（他の研究への発展）

石灰化および歯周組織再生に関係する細胞外マトリックスおよび転写因子に関して研究を続けてきたが、その研究内を発展させて、miRNA の歯周疾への関与に関して、研究を進めている。

（その他）

【別紙様式　8】

課題番号	総 10-038 継続 総 09-027

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　24　年　4　月　23　日

日　本　大　学　総　長　殿

氏　　名　加野　浩一郎　（印）

所属・資格　生物資源科学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1　種　目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　(総合研究)	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

脱分化による体細胞の可塑性と多能性獲得機構に関する研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者

加野 浩一郎(成熟脂肪細胞および卵胞顆粒層細胞の脱分化および多能性獲得機構の網羅的解析)

・研究分担者（役割分担）

森友 忠昭（多能性細胞の遺伝子プロファイリング解析）
関 泰一郎（皮膚および肝臓における再生機構の解明）
松本 太郎（成熟脂肪細胞に由来する多能性細胞 DFAT の遺伝子プロファイリング解析）
小方 頼昌（歯髄組織における多能性細胞の遺伝子発現パターンと多能性維持の機構解明）
中尾 寿美（歯髄組織由来の多能性細胞のニッチ機構の解明）

4　学会発表等　（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
Nobusue H, Ohnishi N, Oki Y, Shimizu T, Saya H, Kano K.	51th annual Meeting , American Society for Cell Biology (Denver Colorado, USA)	Mutural regulation of actin cytoskelton remodeling and peroxisome proliferator-activated receptor- γ on early adipocyte differenatiation	2011・12
沖嘉尚、小野浩雅、坊農秀雅、加野浩一郎	日本畜産学会 第 114 回大会	脂肪細胞および卵胞顆粒総細胞における脱分化機構の網羅的解析	2011・8
加野浩一郎、沖嘉尚、森友忠昭、関泰一郎、小方頼昌、中尾寿美、松本太郎	平成 22 年度日本大学学部連携研究推進シンポジウム「日本大学幹細胞研究フォーラム」	ブタ卵胞顆粒層細胞の脱分化および多能性獲得過程におけるクロマチン構造および遺伝子発現の変化	2011・1
Matsumoto T, Jumabay M, Kazama T, Kano K, Fukuda N, Mugishima H.	The 8th Annual Meeting of the International Federation of Adipose Therapeutics and Science (Dallas, Texas, USA)	DEDIFFERENTIATED FAT (DFAT) CELLS CONVERT INTO CARDIOMYOCYTES PHENOTYPE AND REPAIR INFARCTEDCARDIAC TISSUE IN RATS WITH MYOCARDIAL INFARCTION	2010.10
池田 知、小野浩雅、沖 嘉尚、坊農秀雅、加野浩一郎	日本畜産学会 第 112 回大会	ブタ卵胞顆粒層細胞の脱分化過程における遺伝子発現の経時的変化および機能解析	2010・3
Oki Y, Ono H, Motohashi T, Sugiura N, Kano K.	50th annual Meeting, American Society for Cell Biology (Phyladelphia, Pennsylvania, USA)	Ovarian follicular granulosa cells can transdifferentiate into osteoblasts in vitro and in vivo.	2010.12
Xinyue Li, Naoko Kato, Koichiro Kano, Shigeo Ohba, Kuniyasu Ochiai, Yorimasa Ogata	口腔科学新月	Transcriptional Regulation of Bone Sialoprotein Gene by *P. gingivalis* Lipopolysaccharide.	2009・10

5　著書・雑誌論文　(著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Obinata D, Matsumoto T, Ikado Y, Sakuma T, Kano K, Fukuda N, Yamaguchi K, Mugishima H, Takahashi S.	Int j Urol / Transplantation of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat (DFAT) cells improves urethral sphincter contractility in a rat model.	18・12	2011・12	Wiley
奥村暢章、関 泰一郎	線溶系と組織再生	21・11	2011・11	医薬ジャーナル社
Ono H, Oki Y, Bono H, Kano K.	Biochem Biophys Res Commun / Gene expression profiling in multipotent DFAT cells derived from mature adipocytes.	407・3	2010・4	Elsevier
Nobusue H, Kondo D, Yamamoto M, Kano K.	Comp Biochem Physiol / Effects of lysophosphatidic acid on the in vitro proliferation and differentiation of a novel porcine preadipocyte cell line.	157・	2010・3	Elsevier
Nobusue H, Kano K.	J Cell Biochem / Establishment and Characteristics of Porcine Preadipocyte Cell Lines Derived from Mature Adipocytes.	109・3	2010・2	Wiley
Kobayashi I, Ono H, Moritomo T, Kano K, Nakanishi T, Suda T.	Blood / Comparative gene expression analysis of zebrafish and mammals identifies common regulators in hematopoietic stem cells.	115・2	2010・1	AMERICAN SOCIETY OF HEMATOLOGY
Katakura F, Yamaguchi T, Yoshida M, Moritomo T, Nakanishi T.	Dev Comp immunol / Demonstration of T cell and macrophage progenitors in carp (Cyprinus carpio) kidney hematopoietic tissues. Development of clonal assay system for carp hematopoietic cells.	34・6	2010・1	Elsevier
Jumabay M, Matsumoto T, Yokoyama SI, Kano K, Kusumi Y, Masuko T, Mitsumata M, Saito S, Hirayama A, Mugishima H, Fukuda N.	J Mol Cell Cardiol / Dedifferentiated fat cells convert to cardiomyocyte phenotype and repair infarcted cardiac tissue in rats.	47・5	2009・11	Elsevier
Hosono-Fukao T, Hosono T, Seki T, Ariga T.	J Nutr /Dially trisulfide protects from carbon tetrachloraide-induced liver in injury.	139・12	2009・10	AMERICAN SOCIETY OF NUTRITION
奥村暢章、関泰一郎、有賀豊彦	TAFI と細胞線溶	20・4	2009・10	血栓止血学会

※ホームページ等での公開の (可・否)　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）
加野浩一郎（代表），“脱分化および多能性獲得機構の解明”、2010-2012 年度科学研究費補助金基盤研究（C）（一般），4,420,000 円
加野浩一郎（分担）、“先端再生医療産業化研究事業”、2010-2012 年度 沖縄県・経済産業省、13,000,000 円
松本太郎（代表者）、加野浩一郎（分担）“高齢者難治性疾患に対する脱分化脂肪細胞を用いた細胞治療の確立”、2011-2011 年度科学研究費補助金基盤研究（B）（一般），6,700,000 円

（他の研究への発展）
先端再生医療産業化研究事業において、皮膚、舌および肝臓などの組織再生に伴う組織構成細胞の脱分化および多能性獲得機構に関する共同研究が開始された。これにより、細胞レベルから組織形成・再生へと細胞の集合体としての組織を考慮しながらの研究に発展することになった。また、我々が開発した成熟脂肪細胞由来の多能性前駆細胞を用いた細胞移植治療の実現化に向けた研究が着々と進展している。

（その他）
本プロジェクトの研究から３名の博士号取得者が誕生し、また日本畜産学会第 112 回大会および 114 回大会において、大学院生が優秀発表賞を授与されるなど、学生教育においても本プロジェクトを通して貢献することができた。

【別紙様式　8】

課題番号	総 10-039

平成２２年度　学術研究助成金成果物報告書

平成　24　年　4　月　22　日

日　本　大　学　総　長　　殿

氏名　小　林　信　一　㊞

所属・資格　生物資源科学部　教 授

下記のとおり提出いたします。

1　種 目	一般研究(個人研究)　／　一般研究(共同研究)　／　総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。

2　研究課題

野生鳥獣－特にシカーを活用した地域活性化戦略に関する研究

3　研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）

・研究代表者　小　林　信　一

・研究分担者（役割分担）

野上貞雄、糸長浩司、梶川　博、小泉聖一、壁谷英則、鳥居恭好、高橋　巌、藤沢直樹

4　学会発表等　(要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
壁谷英則、小林信一他	日本獣医師会獣医学術学会	わが国の鹿における志賀毒素産生大腸菌の保菌状況	2012年2月
壁谷英則、小林信一他	人と動物の共通感染症研究会	わが国の野生動物に分布する Bartonella 属菌について	2011年11月
壁谷英則、小林信一他	日本獣医学会	わが国の鹿における志賀毒素産生大腸菌の保有状況について	2011年9月
壁谷英則、小林信一他	日本獣医学会	わが国のシカ科動物とその外部寄生虫におけるリケッチア DNA 保有状況	2011年9月
小林信一,小泉聖一他	日本畜産学会	野生鳥獣害対策に関する研究～シカの嗜好性と下層植生の栄養素量測定～	2011年8月
梶川　博,小林信一他	日本畜産学会	日本シカの体重変化に基づいたエネルギー要求量の推定	2011年8月
鳥居恭好、竹永章生	日本食品科学工学会	地域活性化資源としてのシカ肉の活用を目指した特性分析	2010年9月
野上貞雄他	日本野生動物医学会	神奈川県の野生哺乳動物における抗トキソプラズマ抗体保有状況	2010年9月
野上貞雄他	獣医臨床寄生虫学研究会	野生動物における抗トキソプラズマ抗体保有状況.	2010年6月

5　著書・雑誌論文　(著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)

著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
小林,野上,糸長,梶川,小泉,壁谷,鳥居,高橋,藤沢	日本鹿研究/鹿に関する総合的研究～鹿の資源的利用の可能性～	53	2012/3	全日本鹿協会
小林信一、小泉聖一他	日本鹿研究/スギ人工林下層植生の牧養力に関する研究	53	2012/3	全日本鹿協会
Kabeya,H., Nogami, S., et al.	ParasitologyInternational/Seroprevalence of Toxoplasma gondii in wild boars (Sus scrofaleucomystax) and wild sika deer (Cervus nippon) in Gunma Prefecture,Japan	60(3):331-332.	2011/9	Elsevier
小林信一他	日本鹿研究/鹿肉のインターネット販売の現状と課題	52	2011/3	全日本鹿協会
壁谷英則他	日本鹿研究/鹿が保有する腸管出血性大腸菌	52	2011/3	全日本鹿協会
小林信一	『動物応用科学の展開』,野生動物との共生―その可能性と方向―		2011/3	養賢堂
Nogami, S. et al.	J. Animal Hygiene/Fasciola infections in wild sika deer (Cervus nippon) that inhabittourist site in Japan.	36(1): 1-3	2010/7	日本家畜衛生学会

※ホームページ等での公開の（可・否）　いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6　その他の発表
新聞掲載

発表／掲載者名	新聞名　（朝刊･夕刊）	掲載年月日

その他（ビデオ，CD，シナリオ，写真，舞台等）

氏　名	提出物	内　容	数　量

7　その他の成果　（下記のような成果があれば記入してください。）

（知的財産権の取得）

（外部資金の獲得）
「絶滅危惧種ツシマヤマネコと共生した農業再生・地域再生」トヨタ財団　平成 23 年～25 年

「野生生物の利用管理―フードシステム・エコツーリズム・エコビレッジの観点から」
日本大学国際地域研究所海外研究プロジェクト事業　平成 23 年～26 年

（他の研究への発展）
総合研究では、野生鳥獣―特にシカ対策を中心とした資源活用による地域活性化に関する研究を行ったが、その後、内発的地域活性化と大学などの外部組織の役割を軸に、ツシマヤマネコ、コウノトリなど絶滅危惧種を対象とした野生動物を活用した地域活性化研究へと発展しており、その内容についても野生鳥獣自体の資源利用（肉、皮、角など）に止まらず、生きた野生動物を利用したエコツアーの提唱と実施、あるいは野生動物の保護管理に付随した農畜産物（ヤマネコ米など）の高付加価値販売などの研究に発展している。

（その他）